

# エビ養殖場の再生のため地元大学と共同事業へ！



NPOライオンズの森プロジェクトはインドネシア海洋水産省所轄のシドアルジョ水産専門学校と共同で、エビ養殖場の再生と地元住民の生活を守るために、マングローブを植林します。

## エビ養殖場の現実

インドネシアを中心に東南アジアの国々では、エビ養殖池の開発のために広大なマングローブ林が伐採されています。マングローブの生息する「汽水域」は、エビ養殖にとっても最適地であるため、マングローブの森は伐採され、エビ養殖場へと姿を変えていきました。エビの養殖には、飼料や、特有の病気を予防するための薬剤を大量に投入します。そのため、エビ養殖池の水と土地はひどく汚染され、池の底には、ヘドロ状の土が堆積していきます。5～6年間エビの養殖を続けるとその土地は死んでしまうのです。死んでしまったエビ養殖場は放棄され、新しいエビ養殖場を作るために、新たにマングローブ林が伐採され開拓されていき、マングローブ林の破壊は留まるところを知りません。

## エビ大好きな日本人

日本は東南アジアの国々から安価で大量にエビを輸入しています。中でもインドネシア共和国からの輸入は大変多く、日本のエビ輸入の相手国1位、2位には、常にインドネシアの名前があがります。日本人がいつでも手軽な値段でエビを食べられるのは、こういった東南アジアの国のマングローブ破壊の上に成り立っているのです。

## マングローブの森と地元住民の共生

東南アジアの国のエビ養殖場をしている地元住民は、マングローブの森の恩恵や大切さを知らないわけではありません。しかし、地元住民は自分達の生活がかかっているため、マングローブを伐採し、エビ養殖池を開拓する他ないのです。

このような「使い捨て」の悪循環が続いているのが現実です。エビ養殖の仕事がなくなれば、彼らは生活できなくなるのです。

マングローブの森を守りながら、地元住民の生活も守り、共存共栄する方法はないのか？ それを解決する方法として、マングローブの森とエビを共生させる循環型のエビ養殖場をシドアルジョ水産専門学校と共同で作っていくことにしました。この循環型エビ養殖場とは、エビ養殖場と自然のマングローブの森が融合した池なのです。マングローブは水質を浄化し、土壌を豊かにする「生命のゆりかご」であるため、エビの成長には最適な環境なのです。従来のように薬剤の大量投入などの必要がなくなるため、自然環境本来の浄化作用を利用し、より天然に近い状態になるのです。「使い捨て」ではなく、いつまでも使い続けられる「循環型」のエビ養殖場なのです。

日本の食生活を支えてくれたインドネシアへの恩返しと、破壊してしまったマングローブの森の復興のために、NPOライオンズの森プロジェクトは、地元水産専門学校と共にインドネシア共和国・東ジャワ州にマングローブを植林します！！

**あなたも一緒にマングローブ植林に参加しませんか？  
ライオンズの森は、皆さんの寄付・支援を待っています！  
みんなでマングローブを復興させましょう！！**